



画家 「島村亮」の世界

大塚 真由美

妻田村に生まれた島村亮
(1901～58年)は、18歳で日本
画家山内多門の門に入り画家と
しての道を歩み始めます。多門
没前後は安田軼彦門下となり、
洋画研究にも没頭。第一回帝国
美術院展(36年)で「春甫」が、
次いで「秋林」が文部省美術展
覧会で入選を果たします。「春
甫」は日本画ながら洋画の技法、
点描を用いた作品で、柔らかな
筆致で描かれた里山の風景はさ
ながら桃源郷のよう。

描法がどうあれ日本人の描く



「春甫」は5月12日まで展示。
14日からは「秋林」などに展示替えます。

絵は日本画であり、日本古来の
国民の感覚、国民性が出るとい
う島村ですが、皆さんの目には
どう映るでしょうか。長く展示
のなかった島村作
品です。この機会
にぜひご覧ください。



博物館HPは
こちら▲